

情報技術は入学者選抜を変えるか

土屋俊

大学入試センター入学者選抜研究機構
大学評価・学位授与機構

(2011年10月1日入学者選抜研究機構第2回セミナー)

答は当然NO!でなければならない

- 修辞疑問のお作法として
- ICTごときで、入学者選抜が変わってはいけない
 - ICTは所詮テクノロジー、「入試」は人生の一大事
(ICT = Information and Communication Technology)
 - 入試は公正・厳正・公平・正確・客観的・平等(と、それらを担保するある種の匿名性=不透明性)であるべき。ICTは恣意と格差の技術なので、導入すると、入試の権威と厳粛さが失われるという妄執
 - センター入試の「監督者マニュアル」
 - 京大入試不正事件(2011年2月)への反応(ただし、カンニングはルール違反。携帯を使うこと自体に問題はない)
 - 大学情報提供事業の仕分け(そんな大事じゃないという「世間」の判断。他方で、教育情報公表の義務化はある)
 - 技術は、既存の価値、体制を持続するためにあるはず。それが価値観を変革したり、制度改革をもたらしてはいけない!

でも、今日はYES! 技術決定論でいく

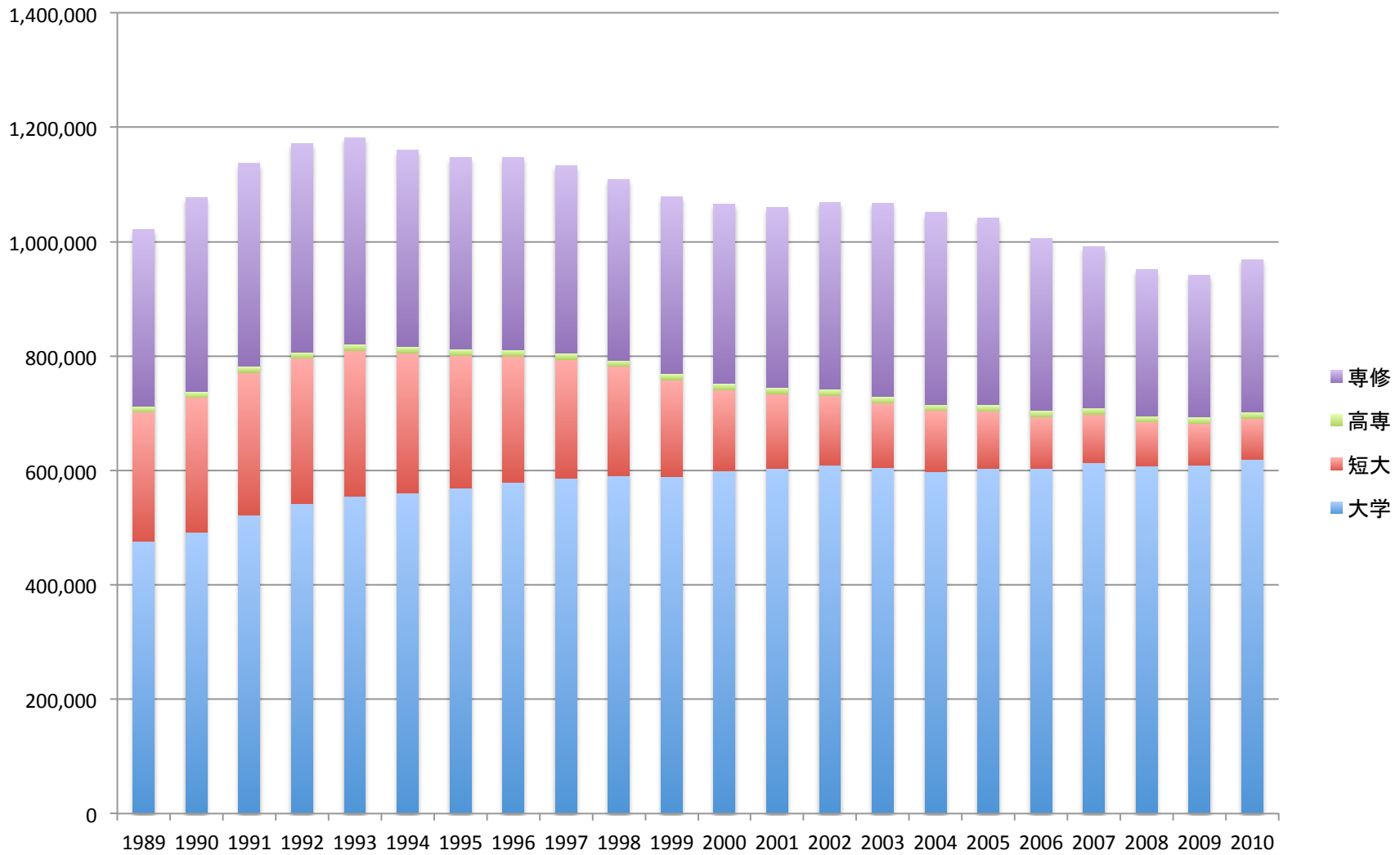
大学分科会まとめ(今年8月)

- 「入試」については一言も言及がない
 - それっぽいものでも、「ユニバーサル・アクセス」と「アドミッション・ポリシー」という片仮名術語
- 基調は「ユニバーサル・アクセスと機能別分化の進展」⇒「いつでも自らの選択で適切に学べる機会の整備」へのシフト、つまり、
 - 18歳フィルターとして大学入学の無意味化
 - 誰でも入れる、受け入れる高等教育
 - 大学は学ぶ機会を提供
 - ただし、自己選択
- あとは、当然のように、今後のテーマとして
 - アドミッション・ディプロマ・カリキュラムの3ポリシー+大学院教育の実質化
 - 機能別分化の進展への対応
 - 学内ガバナンスの強化
- 80年代とくらべて隔世の感
 - なんで? ⇒ 全入化はもはや既成事実

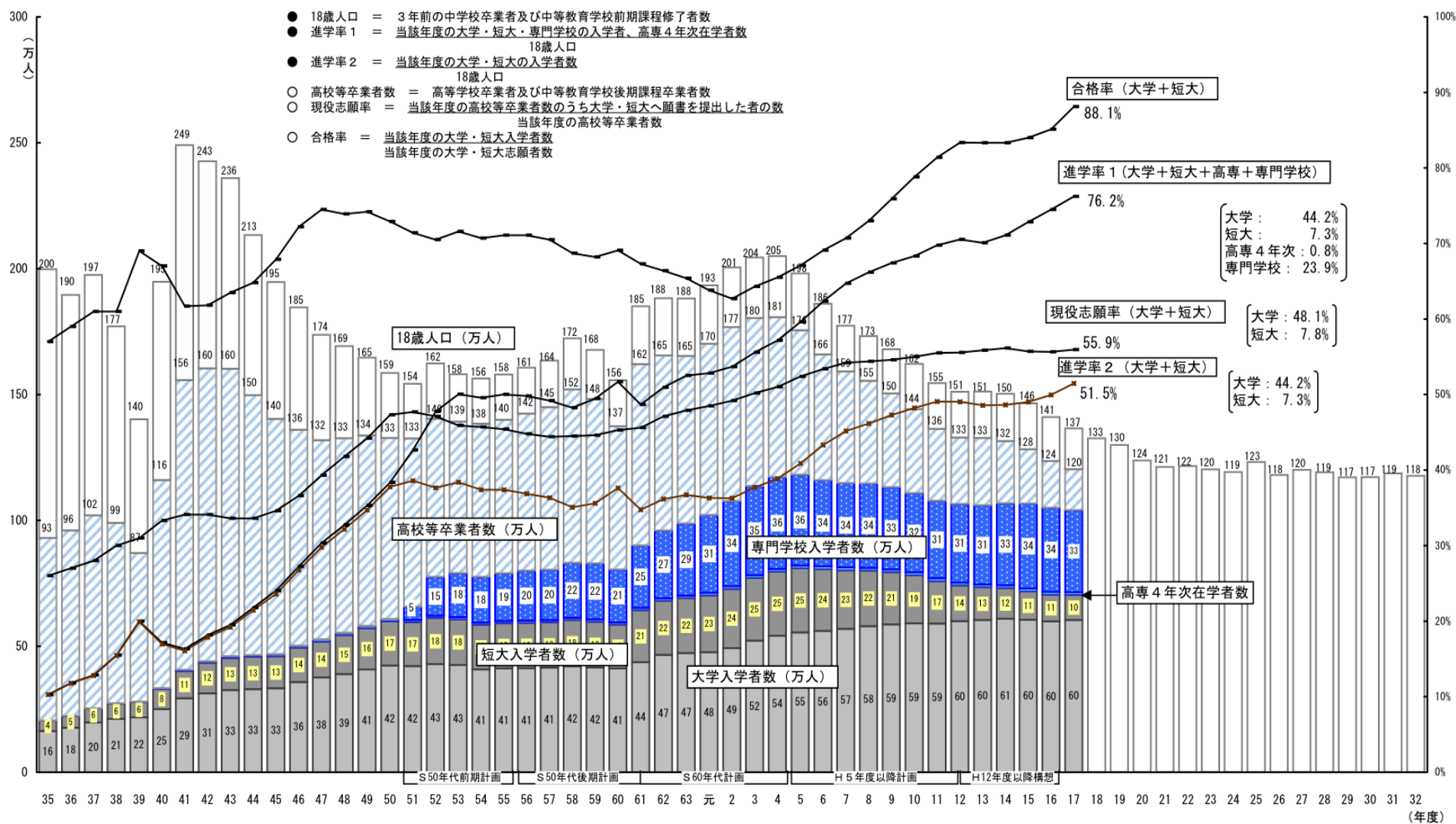
全入化とは?

- 高等教育進学希望者を全員収容できる状態?
 - たぶん今は、これが普通の定義で、在籍者300万人(大学院、短大含め)、入学者60万人(4年制大学)のイメージ
- しかし、高等学校までの12年を超えて就学する人々の数となると、100万人(2010)。これらは、専修学校(ほとんど)+高等専門学校(ちょっと)。これらも「大学」と呼ぶことにすれば、ほぼ本当の意味の全入化になる(あとは決断の問題?)。呼ばなくても、高校卒業はただちに就業を意味しなくなる(**higher educationからtertiary educationへ**)。

入学者数の推移



18歳人口及び高等教育機関への入学者数・進学率等の推移

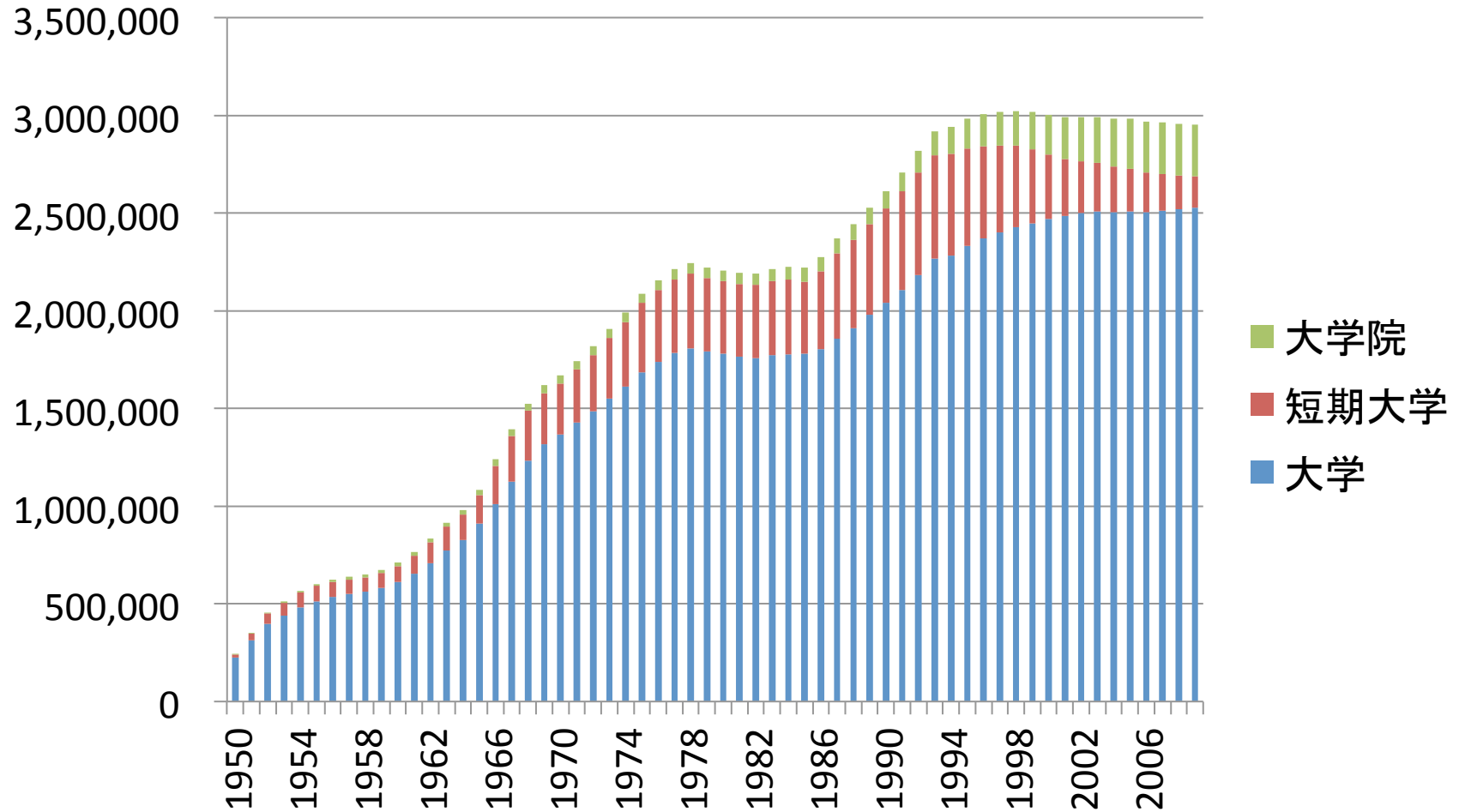


文部科学省「学校基本調査」，国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月推計）より文部科学省作成
 （但し，平成17年度は学校基本調査速報の数値）

ここで当然「卒業」が問題 ⇒しかし、今日の話題ではない

- 「学位」(とくに、「学士」号とは?)
 - 一定の知識・技能の修得の証拠? 社会に出て雇用市場に参入する資格? ⇒ これではどこかで聞いた話(高大接続うんぬんかんぬん)
- 専門資格制度との関係
 - とくに、知識基盤社会では重要そう
 - たとえば、QF-EHEAとEQF-LLLとの関係のようなもの? どちらにも「学習成果」の概念がからむ
- 「卒業率」の問題
 - 4年(標準修業年限)での卒業
- いわゆるグローバル化においては重要
 - 日本ではもう就職できない(雇用を提供できない)

大学の位置(学生300万人)



議論の前提

- 少子化は進行する
- 国内の雇用市場は(実質的に)増大できない
- 現在の高等教育供給力を減らさない
- 世界各国の高等教育供給力は増大する
- 高等教育修了者の(グローバルな)雇用市場における競争は激化する
- 入学者の学力レベルに応じた高等教育を供給する必要がある

全入化時代に入学者選抜は必要か？

- もちろん必要
 - 多い志願者を絞って、教育可能な人数まで減らさなければならぬ
 - 教育可能な人数まで志願者を増やさなければならぬ
 - いずれに方向でも、教育資源と学習需要の(質的)均衡を実現する必要がある
 - 学力不足は困る。しかし、学力不足な学生だけが集まった大学も困る
- むしろ、入学者選抜は、「学生集団構築事業」というべきものに変質
 - 知識提供は、ICTで十分。
 - 学生(と教員)が一緒にいるだけという役割しかもたなくなるこれまでのキャンパスは生の人の集団の性質が大事

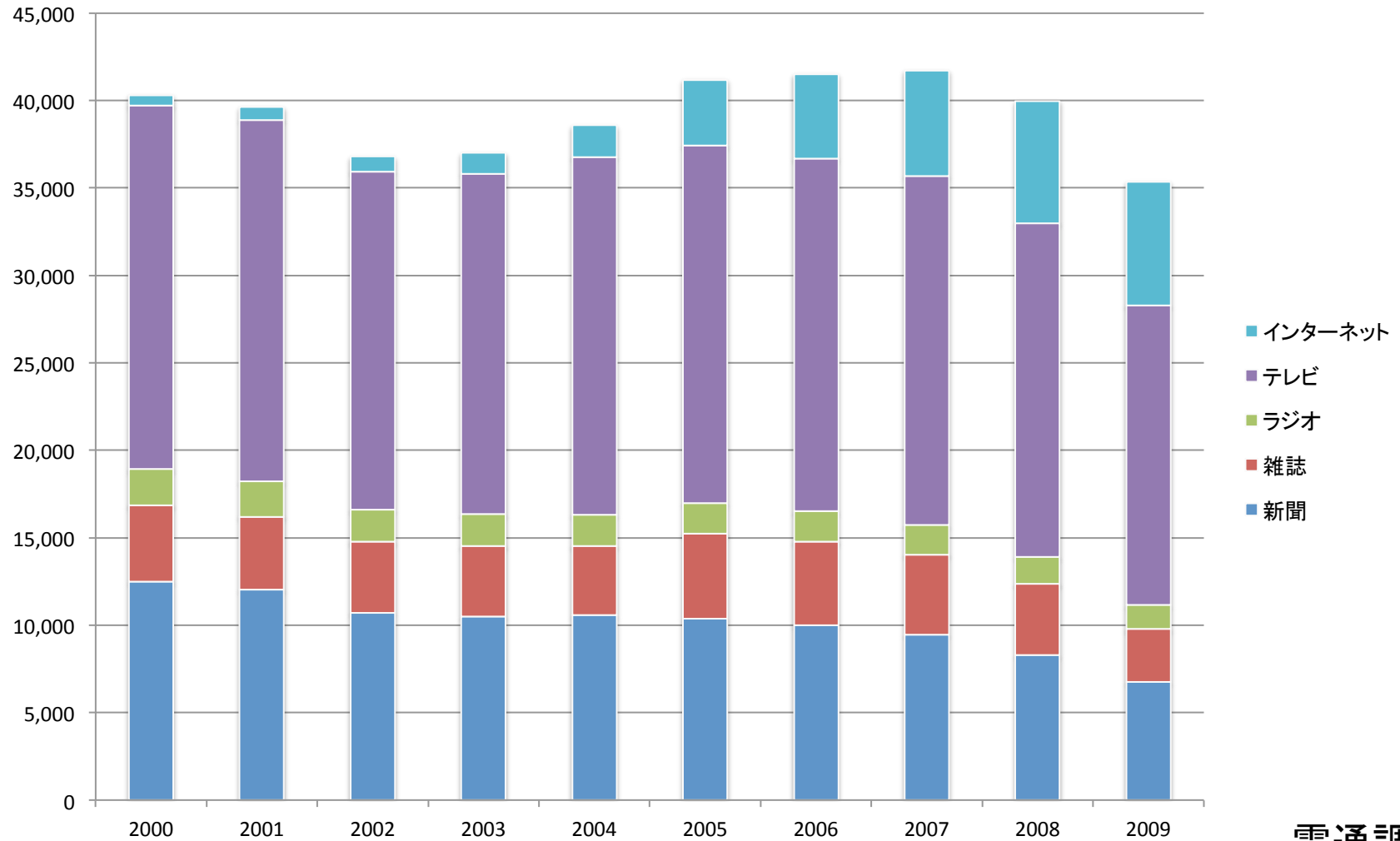
しかも、大学・社会界面での情報の流れ が変わる、いや、変わりつつある

- 一方向から双方向へ
 - 大学から進学希望者へ：大学の便益 (教育の質、卒業後進路可能性、授業料ディスカウント、奨学金?、...))
 - 進学希望者から大学へ：素材価値 (学習能力、つまり学習主体としての質(質なしの人はいないがどの程度かを情報提供)、学習主体としてではない質(制御不可能な資質、獲得した能力(スポーツ等))
- ⇒ 入試は、大学が「課す」ものではなく、進学希望者が自己について情報提供するための機会となる(たとえば、できない学生を教えるのがうまい先生を雇った大学は、できない学生に来てもらわないと給料の無駄遣いになる?)
- 情報仲介者による付加価値：大学間相互比較(学力面、学生支援面)、国際比較(外国語によって海外の進学希望者へ有用性を増強させる)

そのような入学者選抜の変化を支える制度はどうすれば可能か？

- われわれはインターネットの世界に住むようになったのだから、インターネットを使えばよい。
 - 情報交換
 - 経済取引
 - 公的手続き
 - 投票？
 - **+入試**
- 入学者選抜の場合に必要なとされるのは、需要側(進学希望者)・供給側(大学等)の相互調整だが、どうやるのか？
- なんだ、インターネット・オークション・サイトじゃないか

マス4媒体・インターネット広告費の推移（単位：億円）




もう、こういう時代




付録：後日譚



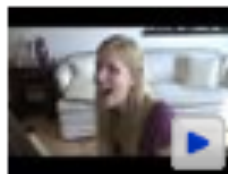
Grace Oberhofer

▶ [Grace Oberhofer, Harvard Hopeful, Sings A Song \(VIDEO\)](#)  
www.huffingtonpost.com/.../grace-oberhofer-harvard-h_n_848664... - Cached
13 Apr 2011 – When Harvard hopeful Grace Oberhofer got wait-listed, she decided to take matters into her own hands... so she wrote an emphatic ditty in ...

[Metro - Grace Oberhofer: She didn't get into Harvard — watch her ...](#)  
www.metro.us/.../831661--grace-oberhofer-she-didn-t-get-into-harv... - Cached
13 Apr 2011 – A high-schooler on the Harvard waiting list has recorded a viral video pleading for admission. What could go wrong?

[Will Grace Oberhofer Make it to Harvard? | Jewlicious THE Jewish ...](#)  
www.jewlicious.com/.../will-grace-oberhofer-make-it-t... - United States - Cached
14 Apr 2011 – When I first read about Grace Oberhofer in Gawker, I didn't know what to think. See, Grace was waitlisted at Harvard. Maybe to relieve some ...

[Grace Oberhofer "The Evil Queen" - YouTube](#)  



www.youtube.com/watch?v=s1TFcKkzSXM

12 Aug 2010 - 3 min - Uploaded by Bryan7009

This is a song I wrote about the Evil Queen from the Grimm Brother's Snow White. It is from the perspective of the queen as she dances on hot ...

まとめ：全入化と情報通信技術

- 大学の課題は、「いつでも自らの選択で適切に学べる機会の整備」となった
- 学力試験による「入試」はもはや入学者受け入れフィルターとして機能していない(事実!)。しかし、選抜したふりをしているので、学力不明の学生を相手にしていることにある
- したがって、大学における教育の質保証の一部として入学者の質の理解は必要(学習の前提として)
- かつ、それ以外のさまざまな要因(「地元」、「卒業に必要な年限」、「野心」など)のつきあわせが必要
- **つまり、入学者=志願者(なぜなら「全入」)交渉サイトの構築が必要**
- 要するに、
 - 学生は、目的別に多様化した学力試験(センター試験を含む)を受ける
 - 結果は進学希望者、大学が相互に利用可能とすべき
 - しかし、それは、それ以外の(質的)要因と並ぶ一つにすぎない
 - 大学側も、何を提供できるかを明示する必要がある(トランスファー、海外も含めて)
- でも、そんなことは、インターネットを活用した情報通信技術によって可能!
- 「真の」全入化時代到来の前に準備しておかねば。

もっと端的に言えば

- 全入化時代の入学者選抜のためには、進学希望者と受け入れ大学が公正に情報を交換できる「オークション(ネゴシエーション)サイト」が必要である
- (学力テストで学力が測定できるものならば)入学時の学力に関する情報を提供することができる
学力テストはますます必要である
 - Remedialだと単位を出せないという問題も回避
 - センター試験(約2万円)と予備校模試(約5千円)は提供できる情報の価値で競うことになる(大学の判断次第)
 - 今まではなんだったんだらう???